

6月～8月のイベント (協会主催・後援・加盟団体主催等)

※協会の主催・後援イベントや加盟団体の活動を中心に掲載しました。詳細は、協会ホームページおよび「Fax メール通信」をご参照下さい。

6月

- 18日(日) 音楽教室「Gold Breath」ホールコンサート
- 24日(土) 図書館の会主催
意見交流会「今!新しい図書館を考えると」
- 24日(土) あびの実「ナイトハイク」

7月

- 2日(日) M-isle Ballet クラシックバレエ発表会
- 8日(土) 第5回八丈島芸能文化祭
- 23日(日) 自然っ子クラブ「八丈小島体験」

8月

- 20日(日) 八丈島 JAZZ フェスティバル2017
- 26日(土) CHAMPION SELECTOR spin out in 八丈島
- 26日(土)～27日(日) 自然っ子クラブキャンプ

公会堂の駐車場が整備される

町に要望していました富士見地区公会堂の駐車場が裏側も含めて簡易舗装されました。
裏に駐車する場合は、左回りの一方通行でご利用ください。
約20台駐車できます。



「八丈島浪漫音楽祭2017」が5月28日(日)に多目的ホールおじゃれて開催されました。

八丈島文化協会 会報 第18号

八丈町三根4869-1 八丈島文化協会事務局 Tel/Fax 2-2833
HP: <http://www.8jobunka.jimdo.com/> e-Mail: bunkakyoukai8jo@yahoo.co.jp

2017年6月20日 発行

第6回総会開催 ー来賓、会員、賛助会員出席で賑やかにー ～ 終了後、懇親交流会を実施。初の試みで盛会裏に終わる ～

第6回を迎えた文化協会総会が役場内「商工会研修室」で6月3日開かれました。会員、賛助会員、来賓が多数出席して、例年に増して賑やかな総会となりました。

会長は挨拶で「島内の多方面からの日常のご支援に感謝に堪えない。協会はまだ若い組織なので未熟な活動も多く、見苦しいところもあるがこれからは暖かく支援を送り続けて欲しい。協会は61の団体・個人・賛助会員に発展し、着実に組織強化も図られている。今年は協会も6歳。保育園から小学生になり、新たな節目の学び方が始まる。協会の在り方もしっかりと学び合って、地域の皆さんの期待に応えられる新たな活動の1年にしたい」と、お礼と更なる支援を述べました。

来賓の佐藤教育長からも、「教育委員会としても文化協会は特に社会教育の面では重要なパートナーでいつも気にかけている。活発な活動を展開しており頼もしく思っている。これからは多分野で協力し合っていきたい」との激励をいただき、水野副議長は「文化協会が活発に活動されていることに敬意を持っている。本日も町会議員が大勢見えているが、私たち議員としてもしっかりと応援し見守っていききたい」と心強い挨拶をいただきました。他に茂手木教育委員、岩崎議員、沖山議員、奥山(幸)議員、山下観光協会会長、菊地体育協会会長、町谷八丈高校定時制副校長がご出席くださいました。



総会議事では、28年度活動経過報告、28年度収支決算報告と監査報告、29年度活動計画案、29年度予算案、規約改正案、29年度役員及び理事体制についての報告の7議案の審議を行い、全議案とも原案通り議決されました。

総会終了後、初めてのことでしたが会費制の交流会の席を設け、ささやかな料理と飲み物を用意



。出席者全員に意見や要望、自己の活動などを披露していただき、予定の時間を軽くオーバーするほどの多彩な発表で盛り上がり、和やかな雰囲気の中にも賑やかな意見等が飛び交いました。出席いただいた全ての皆さんに感謝いたします。

総会からが本格的な新年度の活動の始動です。今年も様々な活動が展開されます。会員をはじめ皆さんの力を寄せ合って協会の活動を盛り上げていきましょう。

文協コラム『南風』

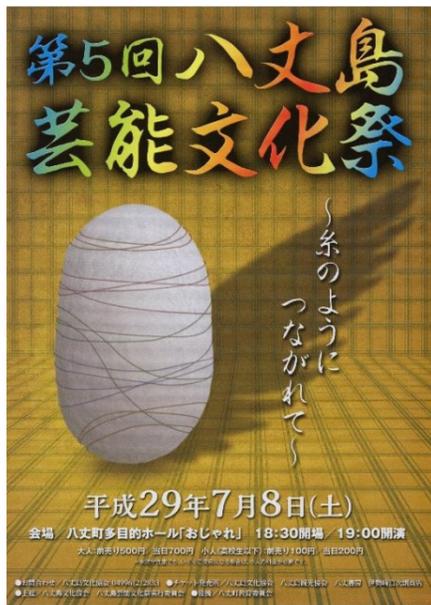
No. 13

◆ 今年も暑い夏になりそう。昨夏は島周辺に鯨が来たと島中が色めき、近年の異常な暑さという、地球規模で荒れ狂う暴風雨といい、異常気象に地球の気象変動が気にかかる。地球が病んでいると思えてならない。◆ 新潟県の山間地で生まれ育った私は、都会のアスファルト猛暑や湿度の高い島の気象風土に少々参ってしまう。夏が早く通り過ぎて欲しいと、15歳で故郷を後にした時からずっと思い続けている。◆ 私ごとで恐縮だが、体調を崩してから大量の薬を飲むようになり、その副作用で体温が高めらしく、所構わず大量の汗が噴き出ることが多発し、一夏の季節はしんどい。◆ 誰しも高齢になるほど体調不良を訴えるが、多寡をくくらず悪くしないうちに常に自分の身体に寄り添い、いたわる必要性を強く感じるようになった後期高齢者予備軍だ。◆ 話は少し古いが永六輔・大橋巨泉さんが亡くなって一周忌が過ぎた。私達の青春時代「社会現象」といわれるほど若者の心を湧き立たせ、戦後から現代に至る文化現象を形成した草分け的な方だった。◆ とりわけ永さんはどんな小さな住民生活も惜しみなく応援され、八丈島に何度か来島され馴染みの方も多かったという。第20回記念八丈島文化フェスティバル(2日間開催)では記念講演を引き受けて下さり、「小さな島に地域住民だけで行なっている、こんな見事な祭典があるとは知らなかった。地域を大事にする住民の驚異的な力だ」と激励してくださった。◆ 永さんは縦横無尽に良く語る方だったが、活動のあるところどこにでも出かける行動の人としても有名で、八丈島文化フェスで島民に呼びかけた「むずかしいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを面白く」の言葉は私の指針となった。◆ 永・大橋さんお二人は庶民的な文化知識人として慕われた。その意思を貫いて「島の文化活動を」と、気持ちを新たに第20回文化フェスの2日間の記憶を鮮明に思い出す。◆ 何故か今回このテーマを南風に書いてみたいという思いが降ってわいてきた。来世でも永さんらしいご健闘をお祈りし、私達も頑張るとお誓いしたい。文化フェスは来年30回だ。

(会長 内山 江差夫)

7月8日(土) 第5回八丈島芸能文化祭

～糸のように つながれて～



およそ百年前の八丈島は、養蚕業がとても盛んでした。蚕は「こな様」と呼ばれ、それはそれは、大切に育てられていました。

そしてそこから「黄八丈」ができてゆく……。

今回の芸能文化祭では、養蚕業から始まり、染め・織りと、その各作業工程の中で生まれる“音”をテーマにしています。そして、3人の語り手たちの群読で、進んでゆきます。

語りA カシャーカシャーカシャーカシャー、蒸気機関車の車輪を回すような感じで機械をヒモで回します

語りB カシャーカシャーカシャーカシャー、カシャーカシャーカシャーカシャー、

語りC ばーちゃん、この手伝いが一番楽しいよ。大きな機械を自分の力で、ぐるぐる、ぐるぐる、まるで機関車みたい!

…こんな感じです。

毎年好評をいただいている伝統芸能の演目はもちろんの事、新しい試みもしてみたいと思います。「春山節」をモチーフにした曲を混声合唱で歌ってみる、という事や、八丈太鼓とフラメンコのコラボ、「八丈太鼓節」をゴスペル風に、などです。

黄八丈は、島の自然が与えてくれた植物から、黄・樺・黒の3色で染められます。この色数が多くはないという事が、独特の美しさを生みだしているとも言えるのではないのでしょうか。織りも機械織りが普通になっている現在も、手織りにこだわり、織り続けられているのです。そんな黄八丈の素晴らしさ、加えて新しい試みについても、共有していただけたら嬉しいです。

<出演> 榎立踊り保存会 ConAnima (コンアニマ) 大賀郷婦人会 フラメンコサークル
中之郷盆踊り有志の会 Melele (ミレレ) 加茂川会 伊勢崎 唯 山下 栄進
MC: よりよい町立図書館づくりをすすめる会

会員紹介

『八丈実記』を 読む会



「モフ云ハジ書カジト思ヒ思ヘドモマタアヤナクモス水茎」

もう言うまい、もう書くまいといくたび思ったことか。しかし、どうしても筆が動いて止められないのだ……

歴史民俗資料館駐車場の一角に立つ石碑は、『八丈実記』の著者近藤富蔵没後百年を記念して1988年(昭和63)に建てられたものです。『八丈実記』は流人近藤富蔵がその生涯を賭けて書き残した八丈島に関する「百科全書」。1878年(明治11)来島した東京府の役人の目に留まったことから買い上げられ、時を経て1964年(昭和39)から1977年(昭和52)まで、13年をかけて小林秀雄(緑地社社長)の手で全7巻の活字本となりました。小林の仕事は「菊池寛賞」はじめ数々の賞を受けました。『八丈実記』には、室町後期から明治初期まで約400年間の八丈島がギッシリ詰まっています。

ティコボ星人三原小体育館に現る!?

第90回 あびの実公演 5/20(土)

ティコボのガラクタ音楽会

(TOMO OFFICE)

主催: 八丈島文化協会

八丈島あそびと文化のNPOあびの実

音楽の高みにまで持っていくという、ガラクタ音楽会。

本来捨てられてしまう廃品を楽器と化し、音楽の高みにまで持っていくという、ガラクタ音楽会。しかし、当日演奏会場にしつらえられた打楽器の数々はガラクタとはほど遠い、吟味され、調律され、美しく整えられた楽器たちでした。

演奏する人(?)はトモトモ、パナパナ、エノエノの3ティコボ星人。ガッチャ、ガッチャ足音高く、打楽器を打ち鳴らしながら登場し、なぜか地球で流行っている音楽を知っていて、次々と演奏。

スターウオーズ、アナと雪の女王、ドレもごみのうた、なんて曲もありました。

オリジナリティーあふれるその楽器たちは音色もオリジナル。

聞いたこともない宇宙からの調べも奏でてしまいます。

参加者は約80名といつもより少なめでしたが、予測を超えた絶品廃品パフォーマンス、

予測を超えた心地よい音と調べを楽しみました。



観客である地球人とのコラボもありましたよ。

新聞楽器やペッカーという観客手作りのオリジナルシェイカー楽器でトモトモ星人の振りに合わせてシェイク、シェイク。

最後は、運動会で馴染みの曲にのせて、全員で会場中を練り歩きました。

島の当日の天候は底抜けの晴天、

ティコボ星人が地球の雲をけちらしたのですよ、きっと。

『八丈実記』を読む会は、30数年前、「『実記』を手がかりに島のことをもっと知りたい」という仲間が集まって始まった読書会です。毎週水曜日午後8時から1時間半、大賀郷西見の金城邸で、この大著を一字ずつ読んでいます。気の遠くなるような営みから、この島に生きた人びとの過酷な暮らしのさまが見えてきます。『実記』を通じて深まった関心事をさらに調査して、その結果をみなさんにも知っていただこうと、「歴史セミナー」も開いています。そのレポートは八丈島の歴史に新たな視点を提供するものとして評価されています。

「近藤富蔵伝」の著作もある科学史家の筑波常治氏は、『八丈実記』を「悲しみが生んだ名著」と評しました。いま、この名著をいっしょに読む仲間を求めています。

連絡先: 伊藤 090-8036-1826

新事務職員紹介

宮部京子さんの退任に伴い、5月より武田真由美さんに勤務して頂いています。勤務日は、月・水及び第2・4火曜日です。その他の日は、引き続き山下久美子さんです。勤務時間は午前9時15分～1時45分です。